

～ 下記の研究を行います～

この調査は本病院の倫理委員会より実施の承認を得ています

Pachychoroid neovascularopathyの臨床調査

研究の概要

目的

Pachychoroid neovascularopathy (PNV) は、中高齢者の眼底黄斑部に、脈絡膜血管の透過性亢進を伴う血管新生黄斑症で、2003年にPachychoroid pigment epitheliopathyという疾患概念で最初に報告されました。臨床所見上、中心性漿液性脈絡網膜症（central serous chorioretinopathy: CSC）、加齢黄斑変性（age-related macular degeneration: AMD）と鑑別が難しいですが、PNVの詳細な臨床的所見や自然経過、治療経過などの詳細な情報が不十分であるのが現状です。

そこで今回、PNVの臨床的特徴を検討するため、今回、PNVと診断され、加療されている患者さんのデータを統計学的解析を行い、個人が特定されない形で学会、学術雑誌に公表することを予定しています。

対象者

2005年6月18日から2015年6月18日までに、当科でCSC、あるいはAMDと診断され、蛍光眼底造影と光干渉断層検査を施行した40歳以上の患者

除外基準

- 1) 重度の中間透光体混濁（白内障など）を有する患者
- 2) 造影剤のアレルギーで眼底造影検査を施行できなかった患者

研究方法

① 対象患者さんの視力、網膜脈絡膜厚の経過、これまでに行った光干渉断層計・その他眼科検査データ、治療内容や臨床経過を電子カルテより抽出し、後ろ向きに解析します。

② 検査は通常診療内で行われたものです。

③ 今後新たにこの研究のための検査を行うことはありません。

研究内容

① 治療後（無治療例は自然経過）の視力、網膜脈絡膜厚、滲出性変化の経過を調べます。

② 眼底検査、造影検査、光干渉断層検査の特徴を調べます。

③ AMD、CSCとの異なる所見について解析します。

④ 患者さん背景の特徴を調べます。

実施場所

香川大学医学部附属病院眼科

研究期間

倫理委員会承認日～平成29年7月31日まで

研究の予定対象者数

100名

この研究に関する情報の提供について

この研究に関係する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

ご希望の方は、下記の連絡先までご連絡下さい。

この研究の対象とされることを拒否する場合

この研究の対象となる患者さんで、研究の対象とされることを拒否することができます。拒否された場合でも、不利益を受けることは一切ありませんし、今後の治療に影響することはありません。

ご希望の方は、下記の連絡先までご連絡下さい。

問い合わせは下記連絡先までお願いします～

連絡先 香川大学医学部附属病院眼科
白神 千恵子
TEL : 087-891-2211